Eccrine Ductocarcinoma 36

Eccrine Ductocarcinoma ?

高橋 秀東*¹ 大見 尚*¹ 植田 時司*²
上野 賢一*¹

Summary

60歳女性の頭部に生じ、組織学的に強い segregation を示した腫瘍で、酵素組織化学的検索は行っていないが、電顕的に核周囲の豊富なミトコンドリア、ミトコンドリア内顆粒、特異な dense body、 β 型糖原などが認められたことにより、eccrine ductocarcinoma と思われた症例を報告する。

緒 言

eccrine ductocarcinoma の本邦報告例は少なく、またその電顕的検索を行っているものも少ない。今回われわれはその電顕所見より、エクリン汗腺の真皮内導管外周細胞に類似すると思われる eccrine ductocarcinoma を経験したので報告する。

症 例

60歳、女性

初 診：昭和59年12月25日

家族歴：悪性腫瘍なし

既往歴：頭部外傷などの既往なし。

現病歴：約1年半前より左側頭部に発疹生じ、「イボ」状となったため某医を受診し、良性のものといわれ放置。次第に増大し、2ヵ月前よりときに排膿をみるため近医を受診。当科を紹介される。

現 症：左側頭部に直径 10 mm、中心部陥凹してびらん性、辺縁堤防状隆起性の紅色腫瘍あり、周囲に紅斑と浸潤を触れる(図1)。下床には可動性。

病理組織所見

表皮より真皮深層にかけ腫瘍細胞の分葉状増殖あり、周囲の結合組織の増殖も伴う。表皮と接する部分では、あたかも表皮細胞が acantholysis を起こしているかのようにみられる(図2)。個々の細胞は明るい核と好酸性の原形質を有し、一部で密に接して円形～多角形、一部で segregation をきたし、corps ronds 様細胞も認める。分裂像は少ないが、2～3核の細胞もみられる(図3, 4)。管腔形成は一部にのみ認められるが、明らかなクチクラはみられない(図5)。PAS 陽性(ジアスターゼ消化性)。アルジャン青、コロイド鉄陰性。S-100 蛋白陰性。

電顕所見

一層の基底膜によって囲まれた、類円形、楕円形ないし多角形の細胞で、豊富な細胞質を有する。細胞表面には villi 様突起が発達し、少数の付着 tonofilament の発達の悪い desmosome 結合を認める。核は切れ込みのある不整

*1 Hideharu TAKAHASHI, Takashi OHMI,
Kenichi UYENO: 筑波大学皮膚科学教室

*2 Tokiji UEDA: 植田医院(土浦市)

图 1.

图 2.

图 3.

图 4.

图 5.

图 6.

图 7.

图 8.

形で、その周囲を多数のミトコンドリアが取り囲む(図6)。ミトコンドリアの多くはそのなかに直径20~30mmの高電子密度のミトコンドリア内顆粒を認める。またミトコンドリアと類似の構造をそのなかにもつdense bodyや、 β 型糖原およびそのlake状集積した部分も認められる(図7, 8)。

治療および経過

初診時二次感染が疑われたため、抗生剤、消炎剤2週間投与後腫瘤を全摘出し、組織検査にて悪性を疑われたため創部より1cm隔して再切除を施行。再切除部には腫瘍細胞(-)で、術後6カ月を経過しているが、再発、リンパ節腫脹などは認められない。

考 察

本症例は光顕的に強いsegregationを示し、異型性は少ないがcarcinoma segregansを思わ

せ、また管腔構造は一部にのみ認められたにすぎない。腫瘍細胞はPAS染色陽性、ジアスターゼ消化性で、電顕的にも β 型糖原が認められ、核周囲の豊富なミトコンドリア、ミトコンドリア内顆粒が認められ、これは正常エックリン汗腺外周細胞にみられたものと類似している¹⁾²⁾。また細胞質内にはミトコンドリア類似の構造をもつdense bodyもみられる³⁾。電顕標本の一部で、腫瘍塊の辺縁部に一層の管腔細胞と数層の外周細胞よりなる管腔構造を認め、この外周細胞と腫瘍細胞は微細構造上きわめて類似しており、この点からも本症例をeccrine由来のduct eccrine ductocarcinomaと考えた。

文 献

- 1) Hibbs, R.G.: Am. J. Anat., 103: 201, 1958.
- 2) Munger, B.L.: J. Biophys. Biochem. Cytol., 11: 385, 1961.
- 3) 小倉治雄, 三島 豊: 臨皮, 30: 604, 1976.